



## 雨天時の運転

梅雨の季節になりました。今回は雨天時の運転のポイントを確認しましょう。

### 視界を確保しよう

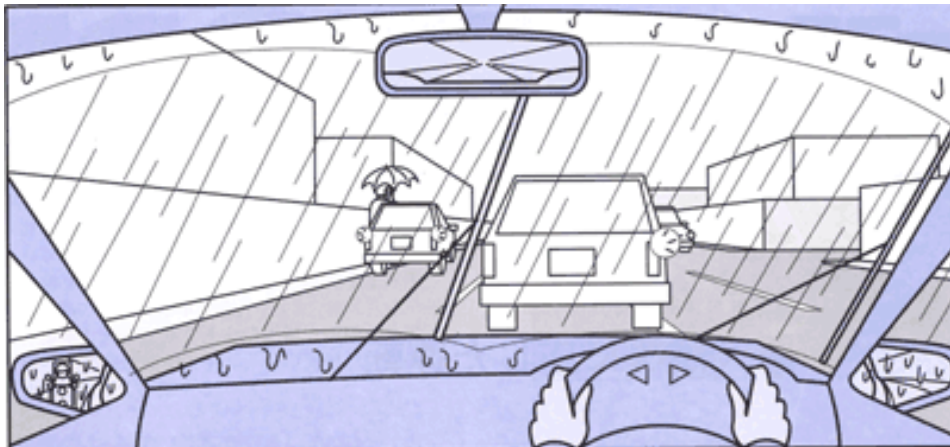
雨の日の運転は、前方の視界を確保することばかりに目が向きがちです。そのためサイドウィンドウ、ドアミラーなどワイパーの届かない範囲について水滴が作る死角を軽視する傾向があります。

しかし、これらの死角は交差車両や後続二輪車などを隠してしまうため大変危険です。そこで、視界を確保する工夫が必要になります。サイドウィンドウはウインドウをいったん下げることによって水滴を大分落とすことができます。ドアミラーやワイパーの届かない部分は、市販の撥水剤を活用することで水滴を弾くことができます。

では実際の走行時にどのような点で気をつければよいか、具体例を見ながら確認してみましょう。

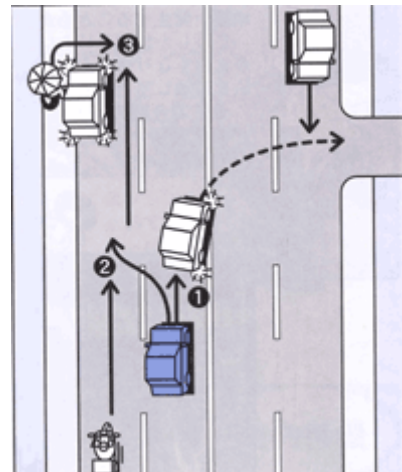
### 雨天時の直線道路の走行

雨天時に片側2車線の直線道路を走行しています。下図のような場面ではどのような危険があるか、予測してみましょう。



### 危険予測のポイント

- (1) 右折のために減速や停止した前車に追突する  
前車は右折の合図を出していますが、その前方から対向車が接近しているため停止することが予測されます。したがって、前車の合図を見落とししたり、気付くのが遅れると、右折待ちのために停止をした前車に追突する危険があります。
- (2) 左側に進路変更して後続のバイクと衝突する  
ドアミラーが水滴のために見えにくくなっています。右折の合図を出している前車との追突を避けるため左側に進路変更すると、左側車線を進行してくるバイクを見落とし、バイクと衝突する危険があります。
- (3) 横断しようとする歩行者に接触・衝突する  
傘をさしているため視界不良となって車道に飛び出した歩行者と接触・衝突する危険があります。



## 安全運転のポイント

- (1) 雨天時は視界が悪くなり危険の発見が遅れがちになるので、常に前方の状況にしっかりと目を向けて、前車の動きに注意するとともに、速度を落とし車間距離も十分にとって走行します。
- (2) 雨天時はドアミラーも水滴のため見えにくくなり、特に車体の小さいバイクを見落としやすくなります。進路変更の際には、バイクが接近していないかどうかを十分に確認します。
- (3) 雨天時は歩行者も傘などのために視界が悪くなり、安全確認が不十分なまま横断することがあります。前方に歩行者がいるときは、速度を落として進行し、歩行者が横断を始めたら一時停止して歩行者を先に横断させます。

運転者も歩行者も視界が悪くなりがちな雨の日の運転は、事故がないように普段よりも細心の注意を払い、一層のゆとり運転を心がけましょう。

(2009年6月作成)